



焼きいもを販売する小学生 いつも完売

子どもたちの伊野いち参加

学校のねらいは何か

前号で、多久和心さんの伊野いち体験を紹介しました。今号では、伊野小学校山根博之先生から、学校のねらいについて寄稿して頂きましたので紹介します。

3Cのねらい

伊野小学校の児童が伊野いちに初めて参加したのは、今から七年半前の平成二十七年六月でした。

当時の資料を見てみると、担任の先生は、伊野小学校の児童が伊野いちに参加するにあたって、二つのねらいを立てていました。一つ目は、伊野いちに出かけ、販売等の仕事を実際に体験することによって、地域活性化のために取り組む人々の願いや工夫、苦労を知る。二つ目は、地域の特産物について関心を高めるとともに、地域の農業や水産業等への理解を深める。

私が担任として伊野いち

に携わった令和三年度からは、「目標に向かって計画を立て実行していく中で、自主性、協働性、創造力を育む」という探究的学習(自分で課題を設定し、情報を収集し、整理・分析して、まとめたり表現したりする学習)を加えました。単に、地域の活動にゲストとして参加するのではなく、自らが進んで伊野いちに関わりうとする意識で参加させたのと考えているからです。

どんな指導をしているか

では、実際にどのような準備や指導をしているかを紹介いたします。

まずは伊野いちがどういった経緯でできたものか、どのような人々がどのような願いを持って参加されているのかを学びます。方法としては、伊野いちを立ち上げるのに携わった山崎敏美さんや多久和祥司さんを地域講師に招いて、伊野いちについての学習をします。

その後、私も参加する伊野いち実行委員会で小学生の役割が決まると、子どもたちは自分が伊野いちでが

んばりたいこと、伊野いちを通してどのような力をつけたいかを、一人一人が考えて伊野いちに臨みます。

子どもの心がどう動いたか

伊野いちに参加した後、どのようなことを学んだか、どのような力がついたのかを振り返ります。

子どもたちの振り返りからは、「買ってくれる人がいっぱいいてうれしかった」、「笑顔で接客することができた」、「お客さんの質問に丁寧に答えることができた」、「緊張したけれど、おもてなしコーナーで接客することができた」、「地域の方やお客さんと交流ができた」、「地域の人と積極的に関わる力がついた」、「もっと積極的になりたい」などの感想が見られました。

我々教員がねらっていた、ふるさとを愛し、地域の一員として地域に貢献し、自主的に参加する姿が見られたことを嬉しく思います。このようなすばらしい学習を、今後も地域と協力して継続して行ってほしいと願っています。

山根 博之